

教科名	国語	科目名	現代の国語	対象学年	2 学年	履 修	必修
対象学科	地域創造農学科	コース		単位数	2 単位	時 数	70
目 標 (生徒につけたい力等)	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身につけるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。(2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。(3) 言葉が持つ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。						

学 期	時数(時間)	学 習 項 目 (何を学ぶのか)	学 習 内 容 (どのように学ぶのか)			
1 学期	6	村田沙耶香「こそそめスープ」	勘違いを題材にした身近な内容の随筆を読み、筆者独自の考え方を理解する。それを通して、感じ方・考え方には多様性があることに気づく。			
	8	塚谷裕一 「スキマが育む都市の緑と生命のつながり」	身近な植物を観察した成果を記述した文章を読み、自然や生命の豊かさの基盤となっているものは何かを読み取る。また、自分の身近な細部に目を配り、その重要性に気づく契機とする。			
	8	鈴木奈々子「森で染める人」	山間部に住み、自然から得た材料で染め物作りをする筆者の考えを追跡する。また、自然の循環の輪を乱さない、持続可能な産業の魅力について考える。			
2 学期	8	渡辺美佐子「りんごのほっぺ」	出来事の順序を整理しながら、戦時下の人々が置かれていた状況を理解する。それらの出来事を通して、筆者が抱いている思いを読み取る。			
	1 0	細馬宏通「不思議な拍手」	心理学的な知見を挙げつつ認知症患者の拍手の理由を推察した筆者の推論の流れを理解する。それを踏まえ、患者の拍手が起こったのはなぜか、自分なりに推論する。			
	1 0	鷲田清一「真の自立とは」	世間で誤解されがちな「自立」の意味を考察する本文を読み、筆者の主張を理解する。それを踏まえて、自らの「自立」について考えを深め、表現する。			
3 学期	1 0	高階秀爾「美しさの発見」	「美しさ」とは何か、どこにあるのか、という問題に迫り、抽象度の高い文章に触れる。抽象的な文章に触れることを通し、評論になれると同時に、「美しさ」について深く考えていくことの魅力に気づく。			
	1 0	港千尋「無彩の色」	身近な色彩を題材にして、豊富な具体例を挙げ、色彩が持つ様々な意味を考察する。日頃は顧みられることの少ない色彩が、生活や文化に根ざしていることを学ぶ。			
教科書/ 副教材	教科書「新編現代の国語」(東京書籍) 副教材「字義で覚える常用漢字」(浜島書店)					
関連科目	科目「 」					
評価の 観 点	知識・技能	・言葉には、認識や思考を支える働きがあることを理解している。 ・語句や語彙の構造や特色、用法および標記の仕方などを理解し、話や文章の中で使うことを通して語感を磨き語彙を豊かにしている。				
	思考・判断・表現	・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて内容を的確に捉え、用紙や要点を把握している。				
	主体的に学習に取り組む態度	・自身を取り巻く状況に関心を持ち、筆者が述べる内容を理解し、学習を活かして他者と話し合いを通して自分の考えをまとめようとしている。				
評価の 観点・方法	観点・方法		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	割合 (%)
	座学(学習観察、発言、話し合い等)		◎	○	◎	2 0
	実験・実習(行動観察、技能)					
	テスト等		◎	◎		6 0
	レポート・ノート・課題等		○	○	○	1 5
	自己評価				○	5
	その他()					
留意事項						
備考	(例) 関連資格などその他伝達事項等					

教科名	公民	科目名	公共	対象学年	2 学年	履 修	必修
対象学科	地域創造農学科	コース		単位数	2 単位	時 数	7 0
目 標 (生徒につけたい力等)	(1) 現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。 (2) 現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。 (3) よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚や、公共的な空間に生き国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。						

学 期	時数 (時間)	学 習 項 目 (何を学ぶのか)	学 習 内 容 (どのように学ぶのか)			
1 学期	6	公共的な空間を作る私たち	自らの体験などを振り返ることを通して、自らを成長させる人間としての在り方生き方について理解すること。			
	7	公共的な空間における人間としての在り方生き方	選択・判断の手掛かりとして、行為の結果である個人や社会全体の幸福を重視する考え方や、行為の動機となる公正などの義務を重視する考え方などについて理解すること。			
	7	公共的な空間における基本的原理	各人の意見や利害を公平・公正に調整することなどを通して、人間の尊厳と平等、協働の利益と社会の安定性の確保を共に図ることが、公共的な空間を作る上で必要であることについて理解すること。			
2 学期	1 0	主として法に関わる事項	現実社会の諸課題に関わる諸資料から、自立した主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身に付けること。			
	1 0	主として政治に関わる事項	政治参加と公正な世論の形成、地方自治、国家主権、領土、我が国の安全保障と防衛、国際貢献を含む国際社会における我が国の役割などに関わる現実社会の事柄や課題を基に、よりよい社会は、憲法の下、個人が議論に参加し、意見や利害の対立状況を調整して合意を形成することなどを通して築かれるものであることについて理解すること。			
	1 0	主として経済に関わる事項	現実社会の諸課題に関わる諸資料から、自立した主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身に付けること。			
3 学期	2 0	持続可能な社会づくりの主体となる私たち	地域の創造、よりよい国家・社会の構築及び平和で安定した国際社会の形成へ主体的に参画し、共に生きる社会を築くという観点から課題を見だし、その課題の解決に向けて事実を基に協働して考察、構想し、妥当性や効果、実現可能性などを指標にして、論拠を基に自分の考えを説明、論述すること。			
教科書/ 副教材	教科書「 公 共 」(実教出版) 副教材「 公 共 演習ノート 」(実教出版)					
関連科目	科目「 政治・経済 」					
評価の 観 点	知識・技能	現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。				
	思考・判断・表現	現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養っている。				
	主体的に学習に取り組む態度	よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚や、公共的な空間に生き国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深めている。				
評価の 観点・方法	観点・方法		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	割合 (%)
	座学(学習観察、発言、話し合い等)			◎	○	30
	実験・実習(行動観察、技能)		○		◎	5
	テスト等		◎	○		30
	レポート・ノート・課題等			◎	○	30
	自己評価			○	◎	5
	その他()					
留意事項	特になし					
備考	特になし					

教科名	数学	科目名	数学A	対象学年	2 学年	履 修	必修
対象学科	地域創造農学科	コース		単位数	3 単位	時 数	1 0 5
目 標 (生徒につけたい力等)	数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 図形の性質、場合の数と確率についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学と人間の活動の関係について認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。 (2) 図形の構成要素間の関係などに着目し、図形の性質を見いだし、論理的に考察する力、不確実な事象に着目し、確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断する力、数学と人間の活動との関わりに着目し、事象に数学の構造を見いだし、数理的に考察する力を養う。 (3) 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。						

学 期	時数(時間)	学 習 項 目 (何を学ぶのか)	学 習 内 容 (どのように学ぶのか)			
1 学期	25	場合の数	集合の要素の個数に関する基本的な関係や和の法則、積の法則などの数え上げの原則について理解する。 具体的な事象を基に順列及び組合せの意味を理解する。 事象の構造などに着目して場合の数を求める方法を多面的に考察し、順列の総数や組合せの総数を求められるようにする。			
	20	確率	確率の意味や基本的な法則についての理解を深め、それらを用いて事象の確率や期待値を求められるようにする。 独立な試行や条件付き確率の意味を理解するとともに、確率の性質や法則に着目して確率を求める方法を多面的に考察し、独立な試行の確率や簡単な場合についての条件付き確率を求められるようにする。 確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断したり、期待値を意思決定に活用したりする。			
2 学期	25	平面図形	三角形や円に関する基本的な性質について理解する。 図形の構成要素間の関係や既に学習した図形の性質に着目し、図形の新たな性質を見いだし、その性質について論理的に考察したり説明したりする。			
	5	空間図形	空間図形に関する基本的な性質について理解する。 図形の構成要素間の関係や既に学習した図形の性質に着目し、図形の性質の新たな性質を見いだし、その性質について 論理的に考察したり説明したりする。			
3 学期	30	数学と人間の生活	数量や図形に関する概念などと人間の活動の関わりについて理解するとともに、数量や図形に関する概念などを、関心に基づいて発展させ考察する。			
教科書/ 副教材	教科書「新 高校の数学A」(数研出版) 副教材「3ROUND 数学 I+A」(数研出版)					
関連科目	「数学Ⅰ」(1年次必修) 「数学Ⅱ」(3年次必修)					
評価の 観 点	知識・技能	数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。				
	思考・判断 ・表現	数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養っている。				
	主体的に 学習に 取り組む態度	数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり評価・改善したりしようとする態度を養っている。				
評価の 観点・方法	観点・方法		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に 取り組む態度	割合 (%)
	座学(学習観察、発言、話し合い等)		—	—	○	(30)
	実験・実習(行動観察、技能)		—	—	○	(30)
	テスト等		◎	◎	—	70
	レポート・ノート・課題等		—	—	◎	(30)
	自己評価 その他 ()		—	—	◎	(30)
留意事項						
備考	評価の観点・方法における評価の割合は座学・問題演習・課題・自己評価を総合的に判断し、合わせて 30%とする。					

教科名	理 科	科目名	化 学 基 礎	対象学年	2 学年	履 修	必修
対象学科	地域創造農学科	コース		単位数	2 単位	時 数	7 0
目 標 (生徒につけたい力等)	(1) 日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。 (2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。 (3) 物質とその変化に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。						

学 期	時数(時間)	学 習 項 目 (何を学ぶのか)	学 習 内 容 (どのように学ぶのか)			
1 学期	6	物質の構成	日常生活や社会を支える身近な物質の性質を調べる活動を通して、物質を対象とする科学である化学の特徴について理解すること。 物質の分離や精製の実験などを行い、実験における基本操作と物質を探究する方法を身に付けること。 元素を確認する実験などを行い、単体、化合物について理解すること。 粒子の熱運動と温度との関係、粒子の熱運動と物質の三態変化との関係について理解すること。			
	7	物質の構成粒子	原子の構造及び陽子、中性子、電子の性質を理解すること。 元素の周期律及び原子の電子配置と周期表の族や周期との関係について理解すること。			
	7	粒子の結合	イオンの生成を電子配置と関連付けて理解すること。また、イオン結合及びイオン結合でできた物質の性質を理解すること。 共有結合を電子配置と関連付けて理解すること。また、分子からなる物質の性質を理解すること。 金属の性質及び金属結合を理解すること。			
2 学期	1 5	物質量と化学反応式	物質量と粒子数、質量、気体の体積との関係について理解すること。 化学反応に関する実験などを行い、化学反応式が化学反応に関与する物質とその量的関係を表すことを見いだして理解すること。			
	1 5	酸と塩基の反応	酸や塩基に関する実験などを行い、酸と塩基の性質及び中和反応に関与する物質の量的関係を理解すること。			
3 学期	1 8	酸化還元反応	酸化と還元が電子の授受によることを理解すること。			
	2	化学が拓く世界	この科目で学んだ事柄が、日常生活や社会を支えている科学技術と結び付いていることを理解すること。			
教科書/ 副教材	教科書「新編 化学基礎」(数研出版) 副教材「高校化学の基礎」(数研出版)					
関連科目	科目「 化 学 」					
評価の 観 点	知識・技能	日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けている。				
	思考・判断・表現	観察、実験などを行い、科学的に探究する力を身に付けている。				
	主体的に学習に取り組む態度	物質とその変化に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を身に付けている。				
評価の 観点・方法	観点・方法		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	割合 (%)
	座学(学習観察、発言、話し合い等)		◎	◎	◎	1 0
	実験・実習(行動観察、技能)		○	○	◎	1 0
	テスト等		◎	◎	○	6 0
	レポート・ノート・課題等		○	◎	○	1 5
	自己評価		—	—	◎	5
	その他 ()					
留意事項	実験においては、自身と他人の身の安全を優先すること。					
備考						

教科名	保健体育	科目名	体育	対象学年	2 学年	履 修	必修
対象学科	地域創造農学科	コース		単位数	2 単位	時 数	70
目 標 (生徒につけたい力等)	(1) 運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付けるようにする。 (2) 生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。 (3) 運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。						

学 期	時数(時間)	学 習 項 目 (何を学ぶのか)	学 習 内 容 (どのように学ぶのか)			
1 学期	2 0	体づくり運動 陸上競技 体育理論	集団行動、体力を高める運動、持久走を行う			
		ソフトボール バレーボール	基本的な技能やルールを学び、ソフトボールやバレーボール特有の競技を楽しむことが出来るように行う。			
		水泳	クロールと平泳ぎを中心として、基本的な泳ぎ方を学ぶことが出来るように行う。また、水辺での活動における注意点を学ぶ。			
2 学期	3 0	バドミントン	基本的な技能やルールを学び、バドミントン特有の競技を楽しむことが出来るように行う。			
		バスケットボール	基本的な技能やルールを学び、バスケットボール特有の競技を楽しむことが出来るように行う。			
		サッカー・フットサル	基本的な技能やルールを学び、サッカー・フットサル特有の競技を楽しむことが出来るように行う。			
3 学期	2 0	バレーボール 卓球 ダンス	基本的な技能やルールを学び、バレーボールや卓球特有の競技を楽しむことが出来るように行う。 現代的なリズムのダンスを中心に行う。			
		体育理論	運動・スポーツの文化的特徴について扱う			
		まとめ	まとめ			
教科書/ 副教材						
関連科目	科目「保健」					
評価の 観 点	知識・技能	運動の特性やルールを理解し、合理的・計画的・公正・安全に実践できる技能を身に付けている。				
	思考・判断・表現	運動を継続的するための課題を発見し、課題解決に向けての実践と、他者に伝える能力を身に付けている。				
	主体的に学習に取り組む態度	自己の果たす責任を理解し、協働や積極的に参画する能力を身に付けている。				
評価の 観点・方法	観点・方法		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	割合 (%)
	準備・片付け		○	◎	◎	2 0
	個人的技能(行動観察、技能)		◎	◎	◎	3 0
	集団的技能(行動観察、発言、話し合い等)		◎	◎	◎	3 0
	レポート・ノート・課題等		◎	◎	◎	1 0
	自己評価				◎	1 0
	その他 ()					
留意事項						
備考						

教科名	保健体育	科目名	保健	対象学年	2 学年	履 修	必修
対象学科	地域創造農学科	コース		単位数	1 単位	時 数	3 5
目 標 (生徒につけたい力等)	(1) 個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けるようにする。 (2) 健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を養う。 (3) 生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。						

学 期	時数(時間)	学 習 項 目 (何を学ぶのか)	学 習 内 容 (どのように学ぶのか)			
1 学期	1 0	生涯を通じる健康	・ ライフステージと健康 ・ 思春期と健康 ・ 性意識と性行動の選択			
			・ 妊娠・出産と健康 ・ 避妊法と人工妊娠中絶 ・ 結婚生活と健康			
			・ 中高年期と健康 ・ 働くことと健康 ・ 労働災害と健康 ・ 健康的な職業生活			
2 学期	1 5	健康を支える環境づくり	・ 大気汚染と健康 ・ 水質汚濁・土壌汚染お健康			
			・ 環境と健康にかかわる対策 ・ ごみの処理と上下水道の整備			
			・ 現代の感染症 ・ 食品の安全性 ・ 食品衛生にかかわる活動			
3 学期	1 0	健康を支える環境づくり	・ 保健サービスとその活用 ・ 医療サービスとその活用 ・ 医薬品の制度とその活用			
			・ さまざまな保健活動や社会的対策 ・ 健康に関する環境づくりと社会参加			
教科書/ 副教材	教科書「現代保健体育」(大修館書店) 副教材「現代保健体育ノート」(大修館書店)					
関連科目	科目「体育」					
評価の 観 点	知識・技能	健康・安全について理解を深めるとともに、健康・安全のための態度が身についている。				
	思考・判断・表現	健康についての課題を発見し、合理的・計画的な解決に向けての思考・判断の能力と他者へ伝える能力が身についている。				
	主体的に学習に 取り組む態度	生涯を通じて健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指すため、協働・参画の態度が身についている。				
評価の 観点・方法	観点・方法		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に 取り組む態度	割合 (%)
	座学(学習観察、発言、話し合い等)		◎	◎	◎	1 0
	実習(行動観察、技能)		◎	◎	◎	1 0
	テスト等		◎	◎	◎	6 0
	レポート・ノート・課題等		◎	◎	◎	1 0
	自己評価		◎	◎	◎	1 0
	その他 ()					
留意事項						
備考						

教科名	英語	科目名	英語コミュニケーションⅡ	対象学年	2 学年	履 修	必修
対象学科	地域創造農学科	コース	-	単位数	3 単位	時 数	105
目 標 (生徒につけたい力等)	英語を通して多様な文化・歴史を学び、情報や考えを的確に理解したり適切に表現したり伝え合ったりするなどのコミュニケーションを図る資質・能力を養う。						

学 期	時数(時間)	学 習 項 目 (何を学ぶのか)	学 習 内 容 (どのように学ぶのか)			
1 学期	6	be 動詞・一般動詞の現在形・助動詞	沖縄の魅力に目を向けるとともに、宮古島の有名人について学ぶ。現在のことやできることを表現する言い方に慣れる。			
	6	be 動詞・一般動詞の過去形・動名詞	日本人とその食文化の歴史について学ぶ。過去のことを表現する言い方に慣れる。			
	6	不定詞・受動態	高校生が取り組むボランティア活動について学ぶ。「～すること」「～するため」や「～される」などの言い方に慣れる。			
	6	文型(Give 人 もの・make 人 状態)	ガチャガチャを通して日本文化について学ぶ。「人に～を与える」「人を～させる」などの言い方に慣れる。			
	6	形式主語・形式目的語	日本にあるユニークな水族館について学ぶ。「～することは…だ」の言い方に慣れる。			
2 学期	9	動名詞	身近な食品の歴史と文化を学ぶ。「～すること」の言い方に慣れる。			
	1 0	接続詞・前置詞	AI(人工知能)と人間との関係について学ぶ。「～する時」「もし～ならば」「～と一緒に」などの言い方に慣れる。			
	1 0	現在完了・現在完了進行形	色と意識や感覚について学ぶ。過去からの継続や経験を表現する言い方に慣れる。			
	9	分詞の形容詞的用法・分詞構文	ストリートパフォーマーのその思いについて学ぶ。「～している…」「～しながら」などの言い方に慣れる。			
	7	会話表現	誘う表現を使う場面の会話に慣れる。レストランや土産物店で注文する表現に慣れる。			
3 学期	8	関係代名詞の制限用法・非制限用法	自撮りの歴史やどう自分自身を表現するかについて学ぶ。「～する…」の言い方や補足説明をする表現に慣れる。			
	8	関係副詞	フィンランドの魅力や日本とのつながりについて学ぶ。「～する場所・時間」「～な場所・時間」などの言い方に慣れる。			
	9	仮定法	社会人になって幸せな人生をおくるためにはどうしたらよいかを考える。「もし～なら」などの言い方に慣れる。			
	5	物語文の読み方	横山さんとバイオリンの話を通じて、様々な表現に触れる。			
教科書/ 副教材	教科書「Amity II」(開隆堂) 副教材「Amity II WORKBOOK」(開隆堂)、「英単語 Value 1000」(数研出版) Hyper Listening Introductory (桐原書店)					
関連科目	-					
評価の 観 点	知識・技能	英語の音声や語彙、表現、文法などの理解を深め、これらの知識を「聞く、読む、話す、書く」ことによるコミュニケーションにおいて適切に活用できる技能を身に付ける。				
	思考・判断・表現	コミュニケーションを行う状況に応じて、日常的な話題や社会的な話題について英語で、その意図を的確に理解し、適切に表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。				
	主体的に学習に取り組む態度	英語の背景にある文化への理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に英語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。				
評価の 観点・方法	観点・方法		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	割合 (%)
	座学(学習観察、発言、話し合い等)			○	○	1 0
	実験・実習(行動観察、技能)		○	○	◎	1 0
	テスト等		◎	◎		6 0
	レポート・ノート・課題等		○		◎	1 5
	自己評価				○	5
その他()						
留意事項	提出物は全て提出すること。					
備考	標準講座、基礎講座の2講座に分けて習熟度別授業を展開する。 およそ週1回程度の頻度でリスニング練習を行う。					

教科名	家庭	科目名	家庭総合	対象学年	2 学年	履 修	必修
対象学科	地域創造農学科	コース		単位数	2 単位	時 数	7 0
目 標 (生徒につけたい力等)	生活の営みに係る味方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、より良い社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力の育成を目指す。 (1)人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な科学的な理解を図るとともに、それらに係る技能を体験的・総合的に身につけるようにする。 (2)家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを科学的な根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を養う。 (3)さまざまな人々と協働し、より良い社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、生活文化を継承し、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養う。						

学 期	時数(時間)	学 習 項 目 (何を学ぶのか)	学 習 内 容 (どのように学ぶのか)			
1 学期	2 0	子どもとの関わりと保育・福祉	乳幼児の心身の発達と生活、子どもの遊びと文化、親の役割と保育、子育て支援についての理解を深め、子どもの発達に応じて適切に関わるための技能を身に付ける。 子どもを取り巻く社会環境の変化や課題、子どもの福祉について理解を深める。 子どもを生み育てることの意義や保育の重要性について考え、子どもの健やかな発達を支えるために、親や家族、地域社会の果たす役割の重要性を考察し、子どもとの適切な関わり方を考える。			
2 学期	1 5	被服製作実習	被服材料としての布の扱い方、道具の名称や使い方を理解し、基本的な裁縫技術を身につける。			
	1 5	人と衣生活	衣生活を取り巻く課題、日本と世界の衣文化など、被服と人との関わりについて理解を深める。 ライフステージの特徴や課題に着目し、身体特性と被服の機能、着装を理解し、健康と安全、環境に配慮した自己と家族の衣生活の計画管理ができるようにする。			
3 学期	1 0	被服管理	被服材料、被服構成、被服衛生、管理について科学的に理解し、衣生活の自立に必要な技能を身につける。			
	1 0	人と住生活	住生活を取り巻く課題、日本と世界の住文化など住まいと人との関わりについて理解を深める。住生活の特徴、防災などの安全や環境に配慮した住宅の機能について理解し、計画管理に必要な技能を身につける。ライフスタイルに応じた持続可能な住居の計画について理解し、日本の住文化の継承について考える。			
教科書/ 副教材	教科書「高等学校 家庭総合 持続可能な未来をつくる」(第一学習社) 副教材「生活ハンドブック 資料&成分表」(第一学習社)					
関連科目						
評価の 観 点	知識・技能	人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な科学的な理解を図るとともにそれらに係る技能を体験的・総合的に身につけている。				
	思考・判断・表現	家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを科学的な根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を身につけている。				
	主体的に学習に取り組む態度	さまざまな人々と協働し、より良い社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、生活文化を継承し、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を身につけている。				
評価の 観点・方法	観 点 ・ 方 法		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	割合 (%)
	座学(学習観察、発言、話し合い等)			○	○	1 0
	実験・実習(行動観察、技能)		◎	○	◎	3 0
	テスト等		◎	○	○	3 0
	レポート・ノート・課題等		○	○	○	2 0
	自己評価				○	1 0
	その他 ()					
留意事項	施設・設備の定期点検及び整備を行い、安全管理や衛生管理を徹底する。生徒の食物アレルギーに関する正確な情報の把握に努める。					
備考						

(令和6年度入学生適用)

教科名	探究基礎	科目名	カルチベーション	対象学年	2 学年	履 修	必修
対象学科	地域創造農学科	コース		単位数	1 単位	時 数	3 5
目 標 (生徒につけ たい力等)	(1) 過去の学習で理解不足と自覚した学習内容を、自ら学び直すことによって知識の定着を図る。 (2) コミュニケーション能力など社会人としての基礎教養を培う。 (3) 習得したマナーやエチケットを学校生活、ひいては社会生活に活用できる技能・態度を培う。						

学 期	時数(時間)	学 習 項 目 (何を学ぶのか)	学 習 内 容 (どのように学ぶのか)			
1 学期	1 0 時間	国語、社会、数学、理科、 英語分野のドリル学習 資格取得学習	生徒それぞれの課題ドリルに取り組む			
2 学期	1 5 時間		個々に危険物取扱者試験や英語検定などの 取得を目指した学習に取り組む			
3 学期	1 0 時間					
		まとめ	1 年間の反省			
教科書/ 副教材	カルチ委員会作成 (分野学習ドリル)					
関連科目						
評価の 観 点	知識・技能	過去の学習で理解不足と自覚した学習内容が身に付いているか。				
	思考・判断・表現	コミュニケーション能力など社会人としての基礎教養が身に付いているか。				
	主体的に学習に 取り組む態度	自ら学び直すことによって知識の定着が出来ているか。また、習得したマナー やエチケットを学校生活、ひいては社会生活に活用できる技能・態度が身に付 いているか。				
評価の 観点・方法	観点・方法		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に 取り組む態度	割合 (%)
	座学(学習観察、発言、話し合い等)				○	2 0
	実験・実習(行動観察、技能)			○		1 0
	テスト等		◎	○		3 0
	レポート・ノート・課題等		○	○	○	3 0
	自己評価				○	1 0
	その他 ()					
留意事項	(例) 実習を行う際の注意事項等					
備考	(例) 関連資格などその他伝達事項等					

教科名	農業	科目名	総合実習	対象学年	2 学年	履 修	必修
対象学科	地域創造農学科	コース	産業創造コース	単位数	3 単位	時 数	1 0 5
目 標 (生徒につけたい力等)	(1) 農業を総合的に捉え体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 (2) 農業に関する総合的な課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。 (3) 農業の総合的な経営や管理につながる知識と技術が身に付くよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。						

学 期	時数(時間)	学 習 項 目 (何を学ぶのか)	学 習 内 容 (どのように学ぶのか)		
1 学期	3 5 時間	栽培分野	・野菜の栽培実習を通して、野菜栽培に関する知識と技術を身につける。 ・実験、調査研究を行い、レポートを作成する。		
2 学期	4 5 時間	畜産分野	・畜産の実習を通して、飼育に関する知識と技術を身に付ける。 ・実験、調査研究を行い、レポートを作成する。		
3 学期	2 5 時間	食品分野	・農産物の加工実習、実験を通して、食品に関する知識と技術を身につける。 ・実験、調査研究を行い、レポートを作成する。		
教科書/ 副教材					
関連科目	科目「地域資源活用」「食品製造」				
評価の 観 点	知識・技術	農業を総合的に捉え体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術が身に付いている。			
	思考・判断・表現	農業に関する総合的な課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力が身に付いている。			
	主体的に学習に取り組む態度	農業の総合的な経営や管理につながる知識と技術が身に付くよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度が身に付けている。			
評価の 観点・方法	観点・方法	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	割合 (%)
	座学(学習観察、発言、話し合い等)		○	○	1 0
	実験・実習(行動観察、技術)	○	○	◎	4 0
	テスト等	○			1 0
	レポート・ノート・課題等		◎	○	2 0
	自己評価			◎	1 0
	その他(意見文・農業鑑定)	◎	◎		1 0
留意事項	意見文未提出の場合、評定「1」				
備考					

(令和6年度入学生適用)

教科名	農業	科目名	総合実習	対象学年	2 学年	履 修	必修
対象学科	地域創造農学科	コース	環境創造コース	単位数	3 単位	時 数	105
目 標 (生徒につけたい力等)	テーマ別の研究活動や実習、フィールドワークを通し、科目「地域資源活用」と連携して学びの深化を図るとともに、地域資源の発掘に主体的かつ協働的に取り組む基盤を育てる 3年次の課題研究に繋がる取り組みとして、生徒が自ら計画・実行・評価・改善を行い、研究活動に取り組む。						

学 期	時数(時間)	学 習 項 目 (何を学ぶのか)	学 習 内 容 (どのように学ぶのか)			
1 学期	20	地域資源の発見	SDGs 上堰物語をたどる 菜の花公園・神戸の大イチョウ・道の駅 現地視察 テーマごとレポート提出、まとめた内容の発表			
	15	地域の自然環境について	外来種の駆除活動 レポート提出、まとめた内容の発表			
2 学期	10	地域の自然環境について	現地視察 秋山郷、上信越高原国立公園			
	25	地域の自然環境について グリーンライフ活動のプログラムの企画と実践	しぶがき応援隊 中央橋よしず張り			
	10	身近な地域資源の発見と活用	ホウキモロコシの管理実習			
3 学期	5	商品開発	ホウキモロコシの新たな活用方法の提案			
	20	身近な地域資源の発見と活用	新たな地域資源の発見			
教科書/ 副教材	特になし					
関連科目	科目「地域資源活用、森林科学、マーケティング、課題研究（3年）」					
評価の 観 点	知識・技術	地域資源の活用について体系的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、関連する技術を身に付けたか。				
	思考・判断・表現	地域資源の活用に関する課題を発見し、合理的かつ創造的に解決する力が身に着いたか。				
	主体的に学習に取り組む態度	地域資源の活用について新たな価値の創造に寄与できるよう自ら学び、主体的かつ協働的に取り組む力が身に着いたか。				
評価の 観点・方法	観点・方法		知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	割合 (%)
	座学(学習観察、発言、話し合い等)		○	○	○	10
	実験・実習(行動観察、技術)		○	○	◎	40
	テスト等		○			10
	レポート・ノート・課題等			◎	○	20
	自己評価				◎	10
	その他(意見文・農業鑑定)		◎	◎		10
留意事項	意見文末提出の場合、評定「1」					
備考						

教科名	農業	科目名	食品製造	対象学年	2 学年	履 修	必修
対象学科	地域創造農学科	コース	産業創造コース	単位数	2 単位	時 数	7 0
目 標 (生徒につけたい力等)	(1) 食品製造について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 (2) 食品製造に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。 (3) 食品製造について生産性や品質の向上が経営発展へつながるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。						

学 期	時数(時間)	学 習 項 目 (何を学ぶのか)	学 習 内 容 (どのように学ぶのか)			
1 学期	5 時間	発酵食品の製造	(1) 発酵食品の特徴と種類 (2) みその製造			
	1 5 時間	農産物の加工	(1) 果実の特徴と加工品 (2) ジャム類について (3) ジャムの製造実習			
2 学期	3 0 時間	農産物の加工	(1) 野菜類の特徴と加工品 (2) トマトの加工 (3) トマトピューレの製造実習 (4) トマトケチャップの製造実習			
3 学期	2 0 時間	豆類の加工	(1) 豆類・種実類の加工 (2) 豆腐の製造実習			
教科書/ 副教材	教科書「食品製造」(実教出版)					
関連科目	科目「総合実習」「地域資源活用」					
評価の 観 点	知識・技術	食品製造について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術が身に付けている。				
	思考・判断・表現	食品製造に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力が身に付けている。				
	主体的に学習に取り組む態度	食品製造について生産性や品質の向上が経営発展へつながるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度が身に付けている。				
評価の 観点・方法	観点・方法		知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	割合 (%)
	座学(学習観察、発言、話し合い等)			◎	○	1 0
	実験・実習(行動観察、技術)		○	○	◎	3 0
	テスト等		◎	○		4 0
	レポート・ノート・課題等			◎	○	1 5
	自己評価				◎	5
	その他 ()					
留意事項						
備考						

教科名	農業	科目名	森林科学	対象学年	2 学年	履 修	必修
対象学科	地域創造農学科	コース	環境創造コース	単位数	2 単位	時 数	70
目 標 (生徒につけたい力等)	農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、森林の構造や機能並びに保全技術などを科学的に捉えるために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 森林科学について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 (2) 森林科学に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。 (3) 森林を科学的に捉えるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。						

学 期	時数(時間)	学 習 項 目 (何を学ぶのか)	学 習 内 容 (どのように学ぶのか)			
1 学期	6	森林の役割 ・森林の多面的な機能 ・森林機能の特徴	森林の役割と育林の意義について学び、わが国の森林の育成、保全、利用における課題について考える。			
	10	主な樹種の性状 ・樹木の識別 ・針葉樹 ・広葉樹	森林を構成する主な樹種の形態的特徴や性質を学ぶ。			
	4	森林の保護 ・動物による被害	有害鳥獣の生態について学ぶ。			
2 学期	12	木材の利用 ・林木の伐採	チェーンソーや刈払機の取り扱い技術を学び、習得する。			
	10	主な樹種の性状 ・樹木の識別 ・針葉樹 ・広葉樹	森林を構成する主な樹種の形態的特徴や性質を学ぶ。			
	8	森林の保護 ・動物による被害	有害鳥獣の生態について学び、共存を考える。			
3 学期	10	森林の総合的利用の展開	森林の保全・技術・ふれあいについて身の回りにある課題を探す。			
	10	造材と集材 ・造材方法 ・集材	高性能林業機械について学習し、スマート林業について理解を深める。			
教科書/ 副教材	教科書「森林科学」(実教出版)					
関連科目	科目「スマート林業」					
評価の 観 点	知識・技術	森林科学について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。				
	思考・判断・表現	森林科学に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。				
	主体的に学習に取り組む態度	森林を科学的に捉えるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。				
評価の 観点・方法	観点・方法		知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	割合 (%)
	座学(学習観察、発言、話し合い等)		○	○	○	10
	実験・実習(行動観察、技術)		○	○	○	30
	テスト等		○	○		40
	レポート・ノート・課題等			○	○	15
	自己評価				○	5
	その他()					
留意事項						
備考						

(令和6年度入学生適用)

教科名	農業	科目名	地域資源活用	対象学年	2 学年	履 修	必修
対象学科	地域創造農学科	コース	産業創造コース	単位数	4 単位	時 数	1 4 0
目 標 (生徒につけたい力等)	1 動植物の栽培・飼育に必要な知識と技術を習得させ、基本を理解させる。 2 プロジェクト学習を通じ、動植物の整理・生体・性質・習性など理解させ、探求する能力と態度を育てる。 3 地域交流を通し、より高い社会性を身につけさせる。						

学 期	時数(時間)	学 習 項 目 (何を学ぶのか)	学 習 内 容 (どのように学ぶのか)			
1 学期	1 0	野菜生産の役割と利用 野菜の生理生態 動物の役割と利用	生産と利用・需要の動向について 播種から定植、基本的な生理について 動物の役割と利用について学ぶ			
	2 0	野菜の栽培 動物の飼育管理	温室トマト・キャベツ栽培。販売まで学ぶ 飼育している動物について学習し、飼育管理を学ぶ			
	1 0	野菜の栽培 動物の飼育管理	スイカ・メロンについて栽培学習し、販売まで学ぶ 飼育している動物の性質や習性など学び、地域交流について学ぶ			
2 学期	2 0	野菜の栽培管理 動物の飼育管理	ネギ・キャベツの栽培管理を学ぶ 家畜について飼育管理や利用を学ぶ			
	2 0	野菜の栽培管理と利用 動物の飼育管理と利用	圃場管理と販売実習を通し、地域連携を学ぶ 飼育動物の生理生態を学び、地域との連携をはかる。			
	2 0	野菜の栽培管理と利用 2 動物の飼育管理と利用 2	栽培管理・圃場管理・地域連携について学ぶ 飼育管理・スクールズーとしての位置づけを学ぶ			
3 学期	2 0	地域資源活用とは 農山村社会と地域振興 動物の利用について	地域資源の活用・プロジェクト学習について学ぶ 行政の取り組み・実践と課題について学ぶ 肉加工について学ぶ			
	2 0	地域資源の価値 動物の利用	観光・商品開発・サービス業・福祉、教育への活用を学ぶ 肉加工について学ぶ			
教科書/ 副教材	教科書「地域資源活用」(実教出版) 副教材「野菜」・「畜産」(実教出版)					
関連科目	科目「総合実習」					
評価の 観 点	知識・技術	動植物及び地域資源の活用について、体系的・系統的に理解し、関連する技術を身につけたか。				
	思考・判断・表現	栽培飼育技術について、課題を見出し、創造的に解決する力が身についたか。				
	主体的に学習に 取り組む態度	栽培・飼育管理について、総合的に理解し、販売実習などを通し、コミュニケーション能力や社会性、授業に取り組む姿勢が身についたか。				
評価の 観点・方法	観点・方法		知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に 取り組む態度	割合 (%)
	座学(学習観察、発言、話し合い等)		◎	○	○	2 0
	実験・実習(行動観察、技術)		◎	○	○	3 0
	テスト等		◎	○		2 0
	レポート・ノート・課題等		○	◎	○	2 0
	自己評価				◎	1 0
	その他 ()					
留意事項						
備考						

教科名	農業	科目名	地域資源活用	対象学年	2 学年	履 修	必修
対象学科	地域創造農学科	コース	環境創造コース	単位数	4 単位	時 数	1 4 0
目 標 (生徒につけたい力等)	地域の歴史や産業、自然及び観光について学び、地元の様々な実践教材の活用を通して、地域資源の活用の意義や役割を実践的に学んでいく。 地域の人材を十分に活用し、地域資源を有効に利用するための技術や仕組みについて学習を深める。						

学 期	時数(時間)	学 習 項 目 (何を学ぶのか)	学 習 内 容 (どのように学ぶのか)			
1 学期	30	農山村の魅力について	地域の観光資源について 上堰物語をたどる 菜の花公園・神戸の大イチョウ・道の駅 現地視察 テーマごとレポート提出、まとめた内容の発表			
	10	地域の自然環境について	在来種と外来種について レポート提出、まとめた内容の発表			
2 学期	10	地域の自然環境について	現地視察 秋山郷、上信越高原国立公園			
	30	グリーンライフ活動のプログラムの企画と実践	しづがき応援隊			
	20	身近な地域資源の発見と活用	小沼ほうき、バンブーキャンドル			
3 学期	15	商品開発	ホウキモロコシの新たな活用方法の提案			
	25	身近な地域資源の発見と活用	新たな地域資源の発見			
教科書/ 副教材	特になし、必要に応じて作成					
関連科目	科目「総合実習、マーケティング、課題研究（3年）、地位資源活用（3年）」					
評価の 観 点	知識・技術	地域資源の活用について体系的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、関連する技術を身に付けたか。				
	思考・判断・表現	地域資源の活用に関する課題を発見し、合理的かつ創造的に解決する力が身に着いたか。				
	主体的に学習に取り組む態度	地域資源の活用について新たな価値の創造に寄与できるよう自ら学び、主体的かつ協働的に取り組む力が身に着いたか。				
評価の 観点・方法	観点・方法		知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	割合 (%)
	座学(学習観察、発言、話し合い等)		◎	○	○	20
	実験・実習(行動観察、技術)		◎	○	○	30
	テスト等		◎	○		20
	レポート・ノート・課題等		○	◎	○	20
	自己評価				◎	10
	その他（意見文・農業鑑定）					
留意事項						
備考						

教科名	商業	科目名	マーケティング	対象学年	2 学年	履 修	必修
対象学科	地域創造農学科	コース	産業創造コース 環境創造コース	単位数	2 単位	時 数	70
目 標 (生徒につけたい力等)	(1) マーケティングについて実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 (2) マーケティングに関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。 (3) ビジネスを適切に展開する力の向上を目指して自ら学び、マーケティングに主体的かつ協働的に取り組む態度を養う						

学 期	時数(時間)	学 習 項 目 (何を学ぶのか)	学 習 内 容 (どのように学ぶのか)			
1 学期	6 時間	現代市場の特徴 マーケティングの概要	・マーケティングの発展について理解させる。 ・マーケティングの全体像をつかませる。			
	8 時間	市場調査の意味 市場調査の方法	・市場調査がマーケティング活動の出発点であることを理解させる。 ・実態調査の具体的な手順について理解させる。			
	8 時間	販売計画と販売予測 販売計画の立案・実施・統制	・販売計画の重要性を理解させる。 ・販売計画の立案・実施・統制の流れを理解させる。			
2 学期	8 時間	製品計画の必要性 製品計画の要素 新製品開発と製品のライフサイクル	・製品計画の具体的パターンについて理解させる。 ・製品のライフサイクルについて、各段階で実施すべきマーケティング活動を理解させる。 ・製品要素、製造物責任、環境保全について理解させる。			
	6 時間	販売価格の決定 販売価格政策	・価格決定のメカニズムとして、需給関係を理解させる。 ・価格決定方法について、マーケティング理念と関連づけて理解させる。			
	8 時間	販売経路の設定 販売経路の強化	・販売経路の構成を理解させる。 ・販売経路の短縮化と多様化の実態を認識させる。			
3 学期	14 時間	販売促進の意味と進め方 広告	・販売促進活動の全体像を理解する。 ・広告の役割と種類について理解させる。			
	6 時間	顧客満足実現のマーケティング	・顧客満足のメカニズムを理解させる。 ・消費者対応活動の本質を理解させる。			
	6 時間	市場調査の実習 広告の実習 販売の実習	・市場調査の詳細な手順を体験させる。 ・広告作成の詳細な手順を体験させる。 ・適切な立ち居振る舞いを身に付ける。 ・セールストークを習熟させる。 ・ラッピングの基本的な方法を習熟させる。			
教科書/ 副教材	教科書「マーケティング」(実教出版)					
関連科目	科目「総合実習」「食品製造」「地域資源活用」					
評価の 観 点	知識・技術	マーケティングについて実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。				
	思考・判断・表現	マーケティングに関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を身に付けている。				
	主体的に学習に取り組む態度	ビジネスを適切に展開する力の向上を目指して自ら学び、マーケティングに主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。				
評価の 観点・方法	観点・方法		知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	割合 (%)
	座学(学習観察、発言、話し合い等)			◎	○	30
	実験・実習(行動観察、技術)				○	10
	テスト等		◎	○		40
	レポート・ノート・課題等			◎	○	15
	自己評価				◎	5
	その他()					
留意事項						
備考						